

## 少子化に伴う部活動の問題について

七年 榎本 康汰

僕の住んでいる荃崎地区は、森や林、田畑など、多くの緑に囲まれた自然豊かな場所です。春には近くで桜並木を見ることができ、夏になるとたくさんのカブト虫やクワガタを採ることができます。秋から冬にかけては紅葉もとてもきれいで、四季折々楽しむことができます。とても良い環境で、二歳からここに住んでいる僕は、この土地がとても好きです。ただ、交通の便が悪く、車がないと行けない場所が多いなどの理由からか、年々人口も減り少子化が進んでいるのが現状です。小学校では、一年生から六年生まで一クラスずつしかありませんでしたが、ずっとそれが当たり前だったので、さほど人数の少なさを感じることもありませんでした。でも、中学校に入学してから、この現状を改めて実感することになりました。

僕は中学校に入学する時、部活動に入部するのをとても楽しみにしていました。でも、チームスポーツは廃部の危機という問題を抱えながら活動しなくてはいけないという現状もあることを知りました。一般的によく知られている、バスケットボール部、野球部、陸上部などが僕の中学校にはありません。サッカー部も僕の学年の入部者が0人だったことから、この先の存続が危ぶまれます。

僕には、小学四年生の弟がいます。弟は地域のサッカー少年団に入っていて、仲間と楽しくサッカーをしています。中学校に行っても今の仲間と一緒にサッカー部に入り活動するのを楽しみにしていますが、今現在のサッカー部員がとても少ないため、弟たちが入学する前に廃部になってしまうのではないかとという危機感をみんなが抱えています。もし、サッカー部が無かった場合にサッカーを継続したい人は、越境して他の中学校に行ったり、部活に入らずクラブチームで活動するしかありません。そうすると、親の送迎が必要になるので、サッカー継続をあきらめざるを得ない子供も出てくると思います。弟たちの学年は試合に出られる人数もそろっているだけに、もしサッカー部が無くなると本当に残念に思います。

僕はソフトテニス部という、チームスポーツでは無い部活に入りましたが、そもそも部活の種類が限られているため、選択肢がある中から選ぶしかないというのが現状でした。それでも、一緒に入部した友達と仲良くなれたり、休日もコートを借りて練習したりすることが出来て、それなりにソフトテニスを楽しむことはできています。でも、部活動の内容に十分満足しているかと言われると、正直物足りなさも少し感じています。ただ、この物足りなさをカバーしてくれる活動があります。「荃崎地区文化スポーツクラブ(KCSC)」です。月に三回ほどの活動ですが、自分たちで考えたメニューをこなす部活動とは違い、専門の外部コーチが学校に来て指導してくれます。内容もしっかりしたメニューを組んでみんなが平等に楽しく活動できるようにしてくるので、とても充実した時間を過ごすことができます。毎日の部活がKCSCの活動だったらいいのになあと思うこともあり、この独自の活動に力を注いでくださっている校長先生を始め、協力して下さっている地域の方々にはとても感謝しています。

今は、働き方改革の推進ということなどもあり、先生方の勤務時間も色々と制限があると

思われるので、地域のコミュニティの中から生まれるこういった活動がもつともつと増えていけばいいのになあと思います。少子化や先生方の抱える問題も多いとは思いますが、元の友達と活動したい子供達が、その活動の場を奪われないようなそんな地域であつてほしいとぼくは思います。